

匠林

SAKABAYASHI

隨筆特集



# 至高の陶酔



金刀比羅宮蔵 寛政6年(1794年)円山応挙 晩年の作(部分)

220余年の伝統の技が贅をつくした「燿」きらめき。

讃岐の金毘羅酒として親しまれ、きました金燿が、酒づくりの贅をつつておくりだした「燿」燿酒。燿酒の歴史は今をさかのぼること三〇〇余年の寛政元年。当主八代目であった西野嘉右衛門が、金毘羅さんの舞ではじめた酒づくりがその第一歩。以来、金刀比羅宮のご神酒として栄誉をうけ、その丹精こめた手づくりの味は、金毘羅詣での人々からも親しまれ、きましました。燿酒「燿」のえも言われぬ風味と「燿」には、金燿の心意気と酒づくりの神髄が相まわって、きましています。

真珠玉のまてとく搗きあげ

水品のまてとく研ぎすました酒造好適米(山田錦)

燿酒「燿」に使っているのは、酒造好適米の中から選びぬかれた最高の大粒米。これを丹念に高度精白し酒の雑味等の原因となる外層部を削り、磨き、吸水のよい、粟粒よりやや大きい、玄米のわずかなる割合での、まるで真珠玉のような芯だけの酒米とする。これを、良質の寒の水でくり返くり返し研ぎすまし、本格的な酒づくりの仕込みへと移っていく。

昔から「麴、二甃三造り」といわれ、り、とおり複雑多岐にわたる工程を熟達杜氏がついでついでに、杜氏は寒中夜も眠らず、我が子を育てるよに精魂をこめ、技の限りをこめて、低温でじっくりくりあげ、こうして、燿酒のアルコール分、旨味をまけから造り出した、手づくりの微妙精緻な燿を誕生させたのです。

芳醇なこく、口あたりの爽やかさ、喉ごしのよさ、まさに燿酒の芸術品。この稀なる燿酒燿を、日本酒をこたく愛するみなさまにじっくりと味わいつけていただきたい。



燿 金燿 超特撰

税込 標準価格 10,800円 1.8L 5,400円 720ml

ラベル右下に記しております番号は、一本一本責任をもって製造いたしました品質の証し。ご入手いただいた貴方さまだけの番号です。

西野金燿株式会社 香川県仲多度郡琴平町四六三三 電話(0877)737341 三三三  
 未発着の燿酒は保証書とあわせて、紙箱中や授賞期の燿酒は必ずお受け下さい。

# 酒林

SAKABAYASHI

隨筆特集



# 酒林

SAKABAYASHI

随筆特集

東京オリンピックの花、チャップラフスカー波瀾の人生

祝休日をもたらす不運

視野を喪う、父を失う

ほろ酔い詩歌紀行——俵万智の酒

絵と文 ㊦ ホタルブクロ

新しいガンの治療 幹細胞でガン退治

彼岸のかまきり

父の遺産

稚内・旭川、そして合掌

池井 優 …… 4

高橋 和 島 …… 6

安森 敏 隆 …… 8

日高 昭 二 …… 10

中西 美 子 …… 13

杉本 忠 夫 …… 14

内野 潤 子 …… 16

宮地 智 子 …… 18

志村 有 弘 …… 20



絵と文

中学時代

佐川 毅彦 …… 22

伏線

志村 栄守 …… 23

鼻の出来ばえと交際交流

片岡 義男 …… 26

乙未元旦

山西 靖彦 …… 28

絵と文

和紙と型絵染版画の魅力

さかもと ふさ …… 30

春よこい

永岡 慶之助 …… 31

ツクル

山本 千明 …… 33

出会いと出会いのご縁

宮本 富夫 …… 35

豊臣秀吉の怒り

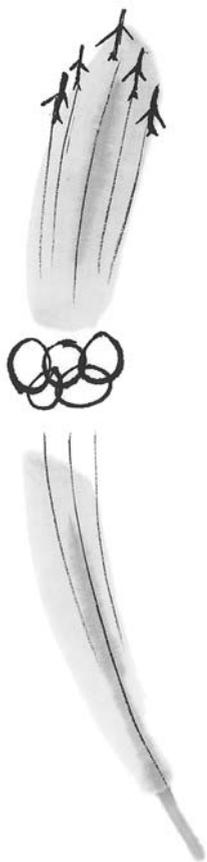
池田 一貴 …… 37

表紙・グラビア ……

# 東京オリンピックピックの花、チャフラフスカ―波瀾の人生

池井 優

(慶應義塾大学名誉教授)



一九六四年東京でおこなわれたオリンピック、多くのヒーロー、ヒロインが誕生し、日本人を熱狂させた。マラソンで二連覇を果たした、哲人「アベベ・ビキラ（エチオピア）、柔道の無

差別級で圧勝したアントン・ヘーシク（オランダ）、世界一速い男を証明した陸上男子一〇〇メートルのポップ・ヘイズ（アメリカ）、「東洋の魔女」といわれた大松監督率いる女子バレーボールの日本チーム……。そのなかにあつてもっとも輝いていたのは女子体操のベラ・チャフラフスカ（チェコスロバキア）であった。金髪的美貌とともに大人の女性を感じさせる豊かな体

型を真つ赤なレオタードに包んでの大胆な演技は特別な存在感をもっていた。「東京の名花」「東京の恋人」といわれどこへいっても人の輪に囲まれた。

オリンピックの金メダリストで美人、性格もいい。栄光に包まれた幸福な生涯が保証されるのは当然と思われる。だが、政治の波が彼女の運命をもてあそぶことになる。一九六八年一月、チェコでは「プラハの春」といわれる社会主義体制の改革運動が開始された。「人間の顔をした社会主義」を目指すこの改革を支持する知識人は六月に「二〇〇〇語宣言」を公表し、国

民的運動へと発展していった。宣言に署名した知識人、著名人のなかにはチャフラフスカも含まれていた。しかし、彼女を含め二カ月もしないうちに祖国がソ連軍の戦車によって蹂躪されるとは夢にも思っていなかった。八月二十一日、チェコの民主化運動の高まりに危機感をもったソ連・東欧軍が戦車を先頭にチェコ全土を制圧したのであった。弾圧を恐れ、一カ月後に迫ったメキシコでのオリンピックの練習も山奥の小屋でやらなければならなかったチャフラフスカは、祖国のため大会で迫真の演技を披露、ソ連の選手を抑えて四つの金メダルを獲得した。

オリンピックが終わった翌日、チャ  
フラフスカはチェコの陸上競技の選手  
オドロジルとメキシコの教会で結婚式  
をあげた。帰国したチャフラフスカ夫  
妻は国民から歓呼の声で迎えられた  
が、「プラハの春」を推進した政治家  
はつぎつぎと追放され、親ソ派にとつ  
て代わられていった。こうしたなかで  
「二〇〇〇語宣言」を撤回する人々が  
つぎつぎと出てきた。国民的ヒロイン  
をその仲間に引き込もうとさまざまな  
工作が開始された。撤回を認めない彼  
女にさまざまな圧力が加わった。職場  
を追われ、夫との関係も冷え込み、生  
活費にさえ欠くようになる。身分  
を隠して掃除婦までやる有様だった。  
精神的にも追い詰められ、長期の入院  
を余儀なくされた。チャフラフスカが  
二〇年におよぶ苦難を乗り越え「国民  
のヒロイン」の座に再び咲いたのは、  
一九八九年十一月、東欧に自由化の波  
が押し寄せたときであった。彼女が  
「二〇〇〇語宣言」の署名撤回をあく  
まで撤回せず、初志を貫いた裏には日

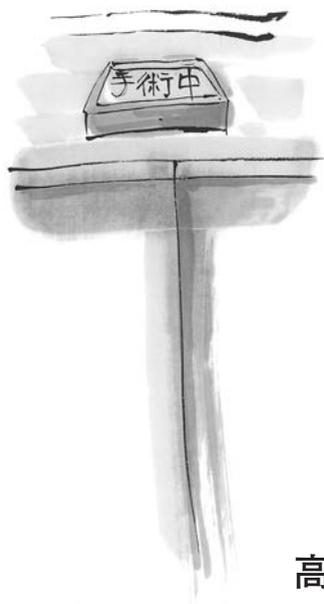
本と日本人の存在があった。  
チェコ日本友好協会の名誉会長とし  
て、東日本大震災に見舞われた日本  
に対し、音楽会などチャリティイベ  
ントを開催し支援の中心的存在となっ  
たチャフラフスカは被災地のこども  
をチェコに招いた。プラハを訪れたこ  
どもたちにチャフラフスカは何度も問  
いかけた。「あなたたちの先輩で素晴  
らしい体操選手だったユキオ・エン  
ドーを知っていますか」。こどもたち  
の反応はなかった。五十年前の東京オ  
リンピックの金メダリスト遠藤幸雄を  
こどもたちが知らなくても当然であ  
る。なぜチャフラフスカは遠藤にこだ  
わるのか。こどもの招待旅行に自費で  
同行したノンフィクション作家の長田  
渚左は、両者の出会い、遠藤の生い立  
ちなどからチャフラフスカが自己の信  
念を貫きとうした裏には日本と日本人  
があったことを解きほぐし『桜色の魂  
―チャフラフスカはなぜ日本人を五十  
年も愛したのか』（集英社）にまとめ  
た。彼女が日本人選手と出会ったのは

一九六〇年のローマオリンピックの時  
であった。ローマ五輪で日本男子体操  
は団体総合など四つの金メダルを獲得  
した。日本男子の明るく、楽しく、気  
取りのない、盤石な演技をする姿に惹  
かれ、六二年の世界選手権で二位と  
なった遠藤と互いに通じ合うものを感じ  
たのだ。同年横浜で開催されたNH  
K国際体操選手権に招待されたチャフ  
ラフスカは日本に関する本を読みあさ  
り、欧州とはまるで違う精神と文化に  
興味と期待を抱いた。そして日本と日  
本人を吸収しようと練習をともにした  
のだった。選手だけではない。公平な  
ジャッジをする日本人初の国際女性審  
判員にも感銘を受け、接触する。東京  
オリンピックで優勝した際、ファンか  
らプレゼントされた家宝先祖伝来の日  
本刀を大切にし、苦難を乗り越えるよ  
りどころとした。  
東京オリンピックから五十年、記念  
イベントに招かれたチャフラフスカは  
明るい表情で心から愛した日本の秋を  
満喫したのだった。

# 祝休日もたらず不運

高橋 和島

(作家・郷土史家)



全国的に名の知られている名古屋のY N病院で、家内が腎臓移植手術を受けたのは約四年前である。

手術はひとまず成功し、大きなトラブルなしに通院生活が始まり、昨年九月を迎えた。

担当のA医師による月一回の定期検査(血液と尿検査。このときはレントゲンなし)を受けたのは四日(木)。異常なしとの診断結果に、付き添いの私はほっとした。しかし、病院を出た

家内の顔色は冴えない。健診データを得るため七本もの大量採血をされたのだから仕方ないと本人は言ったが、後から思えば、おそらくすでに肺炎初期だったに違いない。

五日(金)夜には発熱による体調不良が本格的なものとなり、寝込んでしまった。けれども、六日(土)、七日(日)とY N病院は連休。腎臓移植手術を受けた者は薬など様々な制約があるため、どこの病院でもというわけに

いかない。また、Y N病院内でも腎臓移植外科の医師、できるなら担当のA先生に診てもらいたい。で、土、日辛抱し、月曜の八日、臨時の診察を願う。しかし、A先生は同病院を定年退職の身で常勤ではないため、診てくれたのはB先生だった。

血液と尿検査(ここでもレントゲンなし)による診断は尿道炎による発熱。薬をもらって帰宅したが、病状は一向によくならない。二日後の十日(水)、家内が辛がるのでY N病院に電話を入れ、もう一度診てもらえないかと頼むと、応対の看護師は「来ていただくのはかまいませんが、尿道炎の治療以外はできないと思います」と――。翌日の十一日(木)、発熱が収まらず症状好転はみられない。再度診察治療を願うと、応対の看護師は「休み明けなら、別の診察治療ができると思います」と言う。

つまり、十三日(土)、十四日(日)、十五日(月)敬老の日)の三日間の休日を経た十六日(火)に來なさいと言

うのだ。家内は苦しそうだったが、相手は大病院。私も本人も言われたとおりにすることにしかないかと当面の再診察を諦めた。

ところが、十三日の夜中、家内は布団の上に夕食で食べたものを全部吐いてしまい、もう辛抱できないと訴える。Y N病院へ連絡してもどんな対応をされるかは見当がつく。翌十四日の早朝、隣のT病院に緊急患者として駆け込むと、血液、レントゲンなどの検査の結果、「たちの悪い重症の肺炎にかかっている。治療は腎臓移植をしたY N病院するのが最善。電話を入れておくから、そちらへ行くように」と親切に勧められた。

自宅によって当面入院に必要なものを用意し、一時間余車を飛ばして午前十一時頃、Y N病院に入る。T病院が電話をしてくれたおかげで受け入れてはくれたものの、この十四日は悪いことに日曜日で三連休の真ん中。緊急に診療を求めてきた患者が休日の診療受付にずらり。にもかかわらず、おそら

く医師も看護師も限られた数だったに違いない。家内はすぐには診てもらえず、長時間待たされあげく、夕刻になって腎臓移植患者が感染しやすいカビによる肺炎との診断を得、酸素マスクをつけたまま、集中治療室（緊急ICU・CCU）へ移される。

翌十五日（月＝敬老の日）、新たに家内を担当することになったという医師が言った。自分を含む二人の医師が九十%カビによる肺炎（ニューモシステイス肺炎）と診るが、確定的な結論を得るため、休み明けの翌十六日、肺の中を食塩水で洗浄し細胞を回収する検査をすると――。治療に必要な検査なら直ちにやってくれたらいいのにと考えたが、休暇中の麻酔医などの協力が要るらしい。

この検査は家内を非常に苦しめたようだ。麻酔から醒めても意識はあやしく、私の目には一気に症状が悪化したように映った。後になって考えると、何の益もない、患者に辛い思いをさせ、命を縮めただけの検査だったと断

言する。二人の医師が九十%そうだと診断したなら、休み明けを待つてまで別の検査、それも患者に大きな負担のかかる検査は要るまい。なぜ百%の結論にこだわったのか、いままって理解不能である。

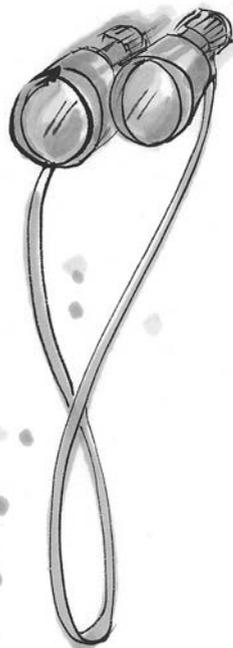
酸素マスクをつけ、緊急ICUで治療を受けることになった家内は半月後に息をひきとるが、この間の土日、祝日に担当医が姿を見せることはなく、きっちり休暇をとっていたようだ。私が「先生を頼りにしています」と頭を下げると、「われわれはチームで治療に当たっていますから……」との返事。何が言いたかったのか見当はつく。九月の土日、祝日の合計休暇数は十日。いまの日本では毎月、人の命を左右しているやもしれぬ休日が月の三分の一もある。

同居人が一枚の写真だけになってしまった男は、無念の思いで唇を噛み、自分言いい聞かせている。医師にも休暇は必要だろうから仕方ないか――と。

# 視野を喪う、父を失う

安 森 敏 隆

(同志社女子大学教授  
ポトナム短歌会代表)



川口紘明さんのごく最近の歌に「視野を喪ふ」という作品がある。私と同じ「午年」生まれであり、一緒に「短歌往来」二〇一四年二月号に載ったものである。私は「戦争前夜の午」と題して、戦死した父のミンダナオでの喪失感をテーマにうたった。

川口さんは十年前から、視力を喪い

始めた。その煩悶と憂愁と孤独を歌に引き寄せて客観的にうたっている。

- ・ 鋳一本に吊らるる視野と眼科医はただに告げたり暗幕を引きて
- ・ 左眼失明右眼四半部残す視野にて立ちつくしたり秋風の中
- ・ なにゆゑになにの報いか知らざれ

どみどりそこひをわれはわづらふ  
・ 妻に手を引かれて朝の雑踏を歩み  
ゆくなり蹠蹠として

・ 年男六度重ねて茫茫と七十二歳の  
われとなりたり

「鋳一本」につられていると医師から告げられた時の歌。そして「左眼失明右眼四半部残す視野」と、まことに

そのままを秋風の中で捉えてうたった歌。「なにゆえに」と煩悶しながらもこの状況をいかにとらえんかと、うたう歌。妻に手を引かれて朝の雑踏を歩み行く時の歌。そして、今年で、六度目の「七十二歳」になったとうたう。歌集名の「この身響らずは」というのは次の作品からとられたものである。

・朝影を踏みて出でゆき夕影を踏みてぞかえるこの身響らずは

朝影を踏み、夕影を踏んで帰ってくる一日の自分を、宇宙に共鳴させるごとく美しい韻律でうたいながら、おのれの「身」のみでなく、うつしみの「身」のすべてのものを、もし響らなかつたならば、なり響動まさずにはおかないぞ、とでも言った魂の躍動感を彼独特の生なるものとしてうたい、読む者の心に響く。「この身響らずは」の背後には、川口紘明さんが長年研究してきたイギリス「ロマン派」の「イオリアの豎琴」の「音」が、背後に秘

められてうたい込められているようにも思われる。

因みに私も「短歌現代」の同号に「戦争前夜の午」を発表している。それには「戦争前夜の星のもとに生れてきた私も、六度目の「午」を迎えたことを、戦死の父と重ねてうたったものである。

「父」をしらぬ子として生まれ、戦場ならぬ日本の荒野を今日まで走り続けてきた我を歌で再現させたものである。「ミンダナオ」の海と空を奔馬となつてかけてゆき、会うことのない、喪失の「父」に今年もあえた、とうたっている。

・わが馬は戦争前夜の午なりき父征  
きしあとを走り来たれる  
・母娶りわれをのこして逝きたも  
父の残せし午なる吾は  
・ミンダナオの海に征きたるわが父  
の遺せし遺品の一つか吾も

私は、川口さんと同じ昭和十七年の

一月に生れた。父は、私を知らないまま南方の戦地にその前の年に立つて行った。私にとつての「戦争前夜」の謂いである。私は、父の「遺品」の一つとして残されてこの世に誕生したという思いが深い。

・駆け抜ける戦争前夜の午にしては  
るけき父と夢ではなしぬ  
・ミンダナオに父逝かして生れたる千里を走る馬なる吾は

「戦争前夜の午」とは私の思いの、偏見と独断の「午」である。私は、戦争前夜に生れることを宿命づけられたのである。「千里の午」となつてミンダナオの海に今でもいつでも馳せていくのである。

今、川口紘明さんは「目」を長らく病んでいる。やつと歌集を出す決断をした。この優れた歌人の秀歌を一人でも多くの方々に読んでいただくことを願つてやまない。そして川口さんの一日も早い回復を祈る次第である。

# ほろ酔い詩歌紀行

## —— 俵万智の酒

日 高 昭 二

(神奈川大学教授)



歌人俵万智は、酒好きで知られる。あるとき、友人から「爛酒の歌を、何首か詠んでくれないか」と頼まれたが、そう「急に言われても、私は短歌製造機じゃありません」と「口をとがらせ」て抗議したことがあるという。このとき友人は、大吟醸、吟醸などの、いわゆる「吟醸酒」ばやりの風潮のなかで、「爛酒」の良さを改めて俵さんに持ちかけたということらしい。

その友人は俵さんに、爛酒は、温め方によって味が違つてくると説明する。たとえば、人肌爛、ぬる爛、熱爛、日向爛、上爛、飛び切り爛など「五度刻み」の温め方があるなど、酒好きの俵さんでも知らない爛酒の豊かさがあることが告げられる。そこに俵さんは、これぞ日本の「文化」と言つても過言でない「日本人の爛酒に対する、並々ならぬ気合というものを感じた」(『百人一酒』文春文庫)と記していた。

やがて俵さんは、さまざまな日本酒をとりそろえている店に行くと、お爛

をすることによってよりおいしくなる酒を「爛あがりのする酒」と言う。店主から知らされる。俵さんならずとも、われわれもまた、酒と「味な日本語」との深い関係に、今更ながら触れる思いがするだろう。

俵万智さんと言えば、歌集『サラダ記念日』でブレイクした歌人である。なかでも「固有名詞」入りの、次の歌が人口に膾炙したことはよく知られている。

「嫁さんになれよ」だなんて

カンチューハイ二本で

言ってしまつていいの

この歌のお蔭で、歌集の出版記念会の際には、「山のようにカンチューハイを差し入れていただいた」というのも、もつともなことであろう。そういう俵さんは、冒頭に述べたように、友人から頼まれた「爛酒」の歌をつくることになる。

熱燗を注げば素焼きのぐい呑みの土の時代が匂う深秋

常温の冷やを好める男にて  
慰められもせず慰めもせず

午後十時夜景の見えるバーに来て  
ジョージが注文するホット・サケ

一首目の、熱燗と素焼きのぐい呑みの歌は、その取り合わせに酒の味わいの深さが詠まれているだけではあるまい。その折の酒が、深い秋の季節感とともにまるで「素焼きの肌に染みるような」酒飲みの身体感覚としても読者に伝わってくるのが大切であつて、おそらくそれが次の男女の関係を彷彿とさせる歌にながつてもいくのである。とはいえ、二首目の歌には、ちよつと解説が必要になるのかも知れない。

俵さんによれば、相手もまた自分と同じく「常温の冷やを好む」男だと、何だか「張り合い」がなく、それでは

この二人は「毒にも薬にもならない」関係になつてしまふという意味が重ねられているのだと言う。そして最後の歌は、「ちゃんと爛をして飲む」外国人に出会つた感激を詠んだ歌で、それは私を「泣かせ」たまさしく「実話」でもあつたらしい。

俵さんの酒の旅はつづき、「古酒」をはじめとして、「泡盛」「椰子酒」「冷やしポルドー」「シャトールマルゴー」「像鼻杯」「サンブツカ」などから、かの伝説の「ロマネ・コンテイー」を口にするまで、じつに感動的な酒めぐりの旅へと連れ出していく。

そうした俵さんの酒好きは、短歌入り生酒「てるて姫」の発売に手を貸し、果ては酒飲みのメッカとも言うべき東京新宿のゴールデン街でアルバイトをするまでになる。仕事のはじめは、開店前に「お通し」の材料を買うことから始めたというから本格的である。そこで用意されたのは、たとえば春なら花わさびの醤油づけ、夏なら冬瓜と干し貝柱の冷し鉢、秋ならきのこ

入り厚焼き玉子、冬なら鮭とじゃがいもの煮物などで、そして九月に「新米の一口おにぎり」を出したらとても客に喜ばれたという。そのとき、客でなかったことが悔やまれるが、こうして書き写すだけでも酒が飲みたくなってくる。

酒に心揺れる俵さんは、当然、歌にもその心がにじみ出る。

地ビールの泡やさしき秋の夜ひやくねんたつたらだあれもない

缶ビールなんかじゃ酔えない夜のなか一人は寂しい二人は苦しい

かつて合いかつて別れし我らゆえ優しく飲める夜と思えり

俵さんには息子さんとの暮らしを歌った歌集『プーさんの鼻』がある。そこには、こういう歌が収録されている。

おさなごがビールの缶を抱きしめてぶはっと笑う それは私か

どうやら酒飲みの遺伝は確実に息子さんに受け継がれているようだ。それもそのはずで、息子さんは俵さんがおつまみに常備している「葉とうがらしの佃煮が大好き」で、それを「ちびちび食べながらジュースを飲んでいる」という訳で、「いずれはイケル口になりそうだ」と言うのもうなづけよう。



# ホタルブクロ

中西美子



ホタルブクロという比較的見つけるのが容易な山野草があります。私は、山歩きは、まっぴらごめんなので、全然見ることはありません。知人の庭で咲いているものを頂き、じっくり写生することができました。色も白と淡い赤紫の花で野趣に富んでいます。憐れなところが複雑な形をしています。洋花のカンパニュラも憐れが同じような形なので同じ仲間であることは、確かです。

ききょう科の花です。洋花のカンパニュラは、ピンク色と白、濃い紫、きれいな薄紫の花が華やかです。カンパニュラという名前も小さな鐘と見たままです。ホタルブクロは、子供たちが、虫を花の中に閉じ込めてその明かりが透けて見えるというところから、この名がついたという。なんと幻想的な情景でしょう。でも、だいたい蛍という名も提灯の古名「火垂（ほたる）」からきているようです。ホタルブクロも別名は、ちょうちん花とか、つりがね草、雨降り花（花期が梅雨時）と言うようですが、やっぱりホタルブクロがいいですね。

検索していたら、面白いことを発見しました。ホタルブクロの花は、オスからメスに変わるといいます。咲き始めは、オスで、めしべの先が成熟して三つに分かれるとメスに変わります。これは、自家受粉を防ぐためです。また虫媒花のホタルブクロは、ハナマル蜂のサイズにあう大きさの花を咲かせています。伊豆諸島では、小型のコハナマル蜂しかいないので、小さな品種のシマワタリブクロが生息しているそうです。

# 新しいガンの治療 幹細胞でガン退治

杉本 忠 夫

(虎の門病院 内分泌代謝科  
非常勤嘱託医)



日本人の三大疾病はガン（悪性腫瘍）、心筋梗塞（狭心症）、脳梗塞といわれております。したがって、ガンは日本人の三分の一が罹る治療が難しい重い疾患です。

ところで、心筋梗塞、狭心症は冠状動脈造影法が進歩し、冠状動脈の狭窄部位を診断して、バルーン療法、ステント挿入療留置法で冠状動脈の狭窄部を拡張し、ほぼ元通りに血流を回復することが出来ます。

しかし、この治療法で拡張できず血流が回復しない場合、冠状動脈バイパス手術を行い血流を迂回させ血流を回復させます。術後は補助療法の抗凝固療法、抗血小板療法で良好な結果が得られております。

これらの治療のお陰で多くの方が社会復帰され、治療前と同じように社会で活躍されております。

脳梗塞については、各地で救急隊と脳梗塞専門医療機関とが連携し、脳梗

塞連携チームが結成されております。そのチームの活躍により早期の抗凝固療法で半身不前麻痺、言語障害などが重症化せず回復することが多くなってきております。

ところで、ガンの治療法としては、手術療法、化学療法（抗ガン剤治療法）、放射線療法が行われております。

しかし、胃癌の手術では術後食事摂取が少なくなり体重が減少することが多いようです。また、手術でガンを完全に切除できなかった場合、化学療法が行われています。化学療法は食欲の低下、吐き気、白血球の減少など副作用がみられます。これらの副作用に対しては対症的に治療されております。

放射線療法では船酔い気分（宿酔）、照射部位の皮膚のひりひりする放射線皮膚炎のため皮膚に色素沈着をきたします。肺に放射線が照射されると放射線は胃炎をおこすこともあり、十分な効果が得られない場合があります。

ところで、白血病など血液の悪性疾患の治療は抗ガン剤を多量に投与するため骨髓細胞がほとんど傷害されてしまっています。

この場合には、骨髓バンクなどを利用して骨髓移植（骨髓幹細胞移植）を行って、移植した骨髓組織が再生され多くの方々が元気に回復し退院されておられます。

これら治療法は副作用のためご本人、ご家族の方々には心身とも負担が大きいものです。もつと負担の少ない治療法はないのでしょうか。

昨年、副作用のない癌の新しい次世代の治療法が明るいニュースとして発表されました。

それは、ハーバード大学幹細胞研究所の分子神経疾患治療部門部長のカーリッド・シャー博士の研究グループによる素晴らしい研究成果です。

この研究は、癌にたいする治療法として将来革新的となる治療法です。

化学療法、放射線療法はガン細胞でない正常組織の細胞も傷めてしまいが

ちです。そこで、シャー博士らはガン細胞だけを選択的に破壊し、正常な細胞を傷つけない治療法を幹細胞を使って研究してきました。

iPS細胞やスタップ細胞でよく知られるようになった幹細胞を利用する方法です。iPS細胞と幹細胞は細胞の分化機能はほぼ同じです。いずれの細胞も自己複製機能と生体組織の元になる分化可能な能力を持ち合せた細胞です。たとえば、骨髄では骨髄幹細胞が分化して赤血球、白血球と血小板になります。この課程を骨髄移植では利用されており、iPS細胞と幹細胞の異なる点は、iPS細胞はノーベル賞を受賞した京都大学iPS細胞研究所の山中伸也教授グループが人工的に作成した自己複製能と細胞分化機能を併せ持つ細胞です。それにたいして、幹細胞は人の受精卵から作成された同じ機能を持つ細胞です。

以前、幹細胞からクローン羊ドリーが作成され話題になりました。このように幹細胞は動物を造る能力のあ

る細胞です。また、先述しましたように白血病の治療で骨髄幹細胞移植にはなくてはならない重要な細胞です。

シャー博士らは、この幹細胞で研究を進めました。そして、幹細胞にガン細胞を破壊するガントキシシン（ガン細胞を壊す毒素）を造り分泌させることに初めて成功しました。

ついで、その効果をラットの脳腫瘍で試すため、このガントキシシンを分泌する幹細胞をラットの脳腫瘍の傍に移植してみました。

この移植した幹細胞から分泌されたトキシシンはラットの脳腫瘍の細胞を見事に破壊しました。もう一つの目的の正常な細胞に障害をすることがかについては、障害を与えなかったと報告されており、

この効果が人間の脳腫瘍に応用されるようになる。脳腫瘍の摘出手術は不要となり麻痺など後遺症を避けることができます。

これからは、人に優しい新しい治療法が開発されていくことでしょう。